

AI オンデマンド交通の実証実験について

【内閣府:デジタル田園都市国家構想推進交付金活用事業】

1. スマートシティ取組みの背景

令和 2 年度	●大阪府が立ち上げた「大阪スマートシティパートナーズフォーラム」の取組みに参画。 ●「子育てしやすいまちづくり」や「高齢者にやさしいまちづくり」などの分野において、課題解決に向けた取組みを参画企業と検討。
令和 3 年度	●総務省の「データ連携促進型スマートシティ推進事業」及び国土交通省の「スマートシティモデルプロジェクト」事業に採択される。 ●一社) コンパクトスマートシティプラットフォーム協議会を設立し、本町を実験実証のフィールドとして、公民連携でのスマートシティサービスを展開。すでに一部サービスを実装。
令和 4 年度	●内閣府のデジタル田園都市国家構想推進交付金事業に採択される。 ●スマートシティ住民アンケートでも要望の多かった交通分野での交付金活用を視野に入れ、先端技術を使った行政課題の解決と住民の Well-Being の向上を図る。

2. AI オンデマンド交通とは

「AI オンデマンド交通」とは、従来の定時定路線型の路線バスではなく、利用者の予約に対して AI による最適な運行ルートを設定し配車をリアルタイムで行う乗合輸送サービスのこと。利用者は実証運行エリア内のミーティングポイントであれば、どこでも乗降が可能となる。



3. 実証実験の目的

人口減少により利用者が減少し公共交通の運行維持が厳しい状況となる一方で、高齢化の進行によりラストワンマイルの課題が顕著化するなど、新しい移動ニーズへの対応が求められている。

こうした移動課題に対し、利便性が高い AI オンデマンド交通を導入することにより、地域の移動総量を増やし、まちの活性化を図ると同時に、将来に向けて安心できる移動サービスの提供を目指す。

- AI オンデマンド交通の可能性を町民に体感してもらい、豊能町での導入可能性を検討する。
- AI オンデマンド交通の有効性と課題を検証する。

4. 実証実験の概要

町民の生活圏内における既存交通を補完し、多様なニーズに柔軟に応える新たな移動サービスとして、AIシステムを用いたオンデマンド交通の実証実験運行を実施する。

利用者がスマートフォンのアプリや電話で配車予約をすると、約 10 分程度で車が指定の場所に到着し、予め指定されたエリア内の目的地まで行くことができる。

また、AI を活用し運行実績から最適なルートを学習するシステムとなっていることや、同じ方向へ向かう利用者同士が相乗りすることで運行の効率化を図る。

※現時点での想定

(1) 実施主体	(仮) AI オンデマンド交通実証実験運営協議会 【豊能町・阪急バス・京都タクシー】 (事務局：まちづくり創造課)
(2) 運行事業者	阪急バス株式会社、京都タクシー株式会社
(3) 協力	一般社団法人コンパクトスマートシティプラットフォーム協議会
(4) 運行態様	区域運行（時刻表はなく、乗りたいときにアプリまたは電話で予約。 町内のミーティングポイントで乗り降りできる。）
(5) 対象エリア	豊能町西地区 (吉川、ときわ台、東ときわ台、光風台、新光風台)
(6) 運行経路	予約に基づきシステムが自動生成した経路を運行 (AI オンデマンド型交通)
(7) 実施期間（予定）	令和 5 年 2 月 1 日～2 月 2 8 日（2 8 日間）
(8) 運行時間	運行時間帯 午前 9 時～午後 5 時 リアルタイムオンデマンド運行で実施
(9) 利用料金	無料
(10) 走行車両	ワンボックス車両（乗車定員（運転手除く）8 名） 車両数 3 台
(11) 予約方法	AI オンデマンド交通の予約アプリ（「とよのんコンシェルジュ」 アプリから遷移）または電話
(12) 周知方法	町ホームページ、広報紙で周知するとともに、公共交通 の利用促進に向けた意識啓発に努める。 ・住民説明会の実施（アプリ登録、操作説明） ・商業施設内にサポートブース（よろず相談） ・プレスリリース

5. 利用実態の把握

(1) 利用状況の検証

実証実験終了後、利用状況を分析し、AI オンデマンド交通の有効性と課題を検証する。

(2) 利用者の意見聴取

利用者へのアンケート調査により、利用目的、満足度、要望等を把握し、移動支援、生活の質の向上、既存公共交通の利用促進に係る効果と課題を検証する。

6. 実証実験後の方針

- ①AI オンデマンド交通の有効性と課題を検証し、結果を（仮）地域公共交通計画に反映させる。
- ②今回の実証実験で得た知見をもとに、令和5年度に実施予定の2回目の実証実験（有償）の内容について検討する。